

しんち九条の会だより

第3号
2007/6/20

どうなるの？ 年金問題

宙に浮いた年金記録

5千万件もの年金が誰のものか分からなくなっていると、今大騒ぎになっていますが、国にきちんと保険料を支払ったのに、いざ年金を受け取る時になって、正当な年金が支給されない人達にとっては絶対に許されないとんでもない問題だと思います。

社会保険庁のずさんな管理がこのような問題を引き起こしたと思われませんが、政府は誰々の責任だとか、いたずらに責任のなすり合いをしているように思われ、醜さを感じます。

勿論、公的年金ですから最終的には国や政府が誠意を持って、国民ひとり一人が決して不利にならないようにこの問題を処理しなければならぬわけですが、今の政府の対応を見ていると少しも誠意が感じられません。安倍首相は「来年の5月までに全件を調査する」と言っているようですが、10年かかっても出来なかったものが、たった1年で出来るのかという疑問の声も上がっているようです。

また真実かどうか分かりませんが、一部の報道によると「消えた年金」は500万件どころではなく1億件以上の年金記録が隠されているなどとも言われ、私たちには何がなんだか分からない状態になっています。

このままでは、年金制度そのものに不信感を持ち、特に若い人を中心に納付金を納めない人達がますます増えてくるように思われます。収めない人達が増えれば、当然年金制度が破綻してしまいます。

国民が老後の安心を得るためには、年金制度は本当に大切なものだと思いますが、「どうせ高い掛け金を払っても、私らは年金をもらえるかどうか分かんないもん」という声をあちこちで聞きます。

こういう人々の信頼を回復する為にはまず国や政府の信頼を回復することが先決です。そのためには、社会保険庁を解

体し、民営化するなどの小手先だけの責任逃れでは、絶対に解決しないと思われま。本来政府とは、国民を守るためにあるのだと思いますが、国民ひとり一人の幸せを守ってこそ、政府はその責任を果たしたことになる。そのことを、もう一度首相を始め、政治家ひとり一人が心に刻んで欲しいものだと思います。



安心してらせる年金を

日本国憲法第9条

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

参院選と憲法問題

夏の参議院議員選挙がだんだん近づいてきました。

安倍首相は今度の参院選で憲法問題を大きな争点にするといっていますが、今国民の関心は年金問題に傾いているようで、各新聞の読者の声欄などには連日年金に関する投書が寄せられています。しかし、憲法を守るということはとても大切なことなので、私達も真剣に取り組んで現在の憲法第9条を守っていかなければなりません。日本国憲法第9条は日本の宝であり、世界の宝でもあります。



ユートピア

しんち九条の会代表 目黒 美津英

昭和6年(1931)の満州事変から太平洋戦争における全国での戦病死者は300万人余、新地町では、「戦後50周年記念新地町戦没者追悼式」(平成7年8月13日)の資料によると、363名(福田111、新地150、駒ヶ嶺102)が戦病死されています。

年齢は、10代から40代。戦病死の場所は、最も多いのがフィリピン・ビルマ・ガダルカナルなどの南方。次が中国・朝鮮・そして国内(沖縄も含む)、またシベリア・アッツ島など北方においても10名ほどが亡くなっています。最も若い人が18歳、現在なら高校3年生です。どんな思いで最後を迎えたかと思うと、熱いものがこみ上げてきます。

各地での戦いなどを体験し、無事帰還した小川の小野義男さん、沢口の佐藤英男さん、小川の寺島洵一さんは、体験記を1冊にまとめておられます。また、駒ヶ嶺の飯土井鶴吉さんは、32歳の時、広島市の兵舎で原子爆弾投下に遭遇し、奇跡的に助かりました。このことを「私も証言するーヒロシマ・ナガサキのことー」(1983年刊)で、当時のことを生々しく語っています。

体験を発表された皆さんは、共通して戦争は残酷で悲惨であり、平和が大事であることを強調されています。



座礁船撤去の作業開始

磯浜に座礁した貨物船の撤去作業が18日(月)から本格的に始まったようです。事故が起こってから2ヶ月も経ってからの作業開始ですが、一日も早く撤去作業が終了することを願わずにはられません。

新聞報道によると、この作業をしているのは「タイタン社」という船体撤去の専門会社だということですが、早くても7月21日までかかる見通しで、天候やうねりの影響で大幅に遅れる心配もあるそうです。

この事故で、釣師の漁業者はコウナゴ漁の休漁など多大の損害を受けているわけですが、その補償がどの程度なされるのかも心配です。そしてこのような座礁船事故の対策を万全にすることが望まれます。

新地町の文化財



鹿狼山は、新地町と宮城県丸森町の境にある3つの山のうち最も高い山で、標高430mです。

ふもとは、福島県緑の百景となっている片倉沢の原生林があり豊かな自然が守られています。

鹿と狼をつれた手長明神が住み、ふもとの村に食べた貝の貝殻を捨てたのが現在の新地貝塚となったという伝説があり、新地貝塚と関係の深い山としても知られています。

また、頂上には鹿狼神社という神社があり、鹿狼山そのものも古くから信仰されてきました。

現在では登山道が整備され、気軽に楽しめるハイキングコースとなっています。また、正月には、太平洋に昇る初日の出を拝むため2000人以上の人が鹿狼山に登っています。

最近では、鹿狼登山の愛好者もたいへん増えてきて、平日でも40~50人、土曜日や日曜日になると多いときで100人以上の人が登っているようです。

「新地町の文化財」

(新地町教育委員会発行)より